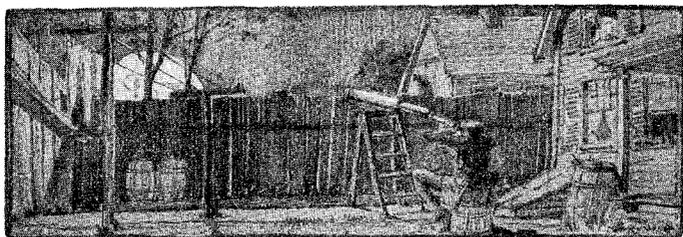


觀
測
部



月
報
欄

遊星面課月報 (1935年7,8月)

幹事が病氣の爲め一ヶ月休みました事をお詫び申します。さて概況7月は不良, 8月は幾分好轉したがあまり感心した天候ではなかつた。

報告數(7,8月)	伊 達	前 田	渡 邊	
金 星	1	—	—	1
火 星	—	4	—	4
木 星	14	10	1	25
土 星	1	—	—	1
	16	14	1	31

金星 寫眞を撮す心積が病氣の爲め出来なかつた。伊達氏より一枚受け取つたが一枚からは別に取り立てて云ふ事は出来ない好季を色色の障害(天候も勿論悪かつた)の爲め見逃して残念であつた。

火星 今 season 最後のものが前田氏4枚!! 別に目新しい點はないが御別れだと思ふと淋しい南極冠は依然小さいまゝ。

木星 伊達氏により連續的なスケッチを得た事を喜ぶ7月中に以前の狀態が大きい變化はなかつたが8月末には南赤道の太い黒い Belt が非常に細くなり又淡くなつた事である。伊達氏のスケッチに依れば7月31日迄は大した變化はないが8月3日の大赤斑を右に迎へて描かれたものは同様な位置の7月27日に比べて細く薄くなつたのが目立ち 8月4日, 7日には一層之の傾向が強い月末には北赤道の黒帯に比べて1/2近い巾になつて來た様である。少し時季がよくなかつたので觀測數も不足して居るがこの變化が捉へられたのは收穫である。又前田氏のも同様な事に注意されて居る。

土星 淋しい輪であるが本體の北赤道の黒帯がますます濃くなつた様であ

る。又淡いが南赤道の邊にも Belt かあるのが伊達氏により描かれた。寫眞を木邊幹事が撮したが(8月24日) Belt が撮影されて居る。ウイルソン山等で撮されて居るのに比べて小口径で撮つた所を見ても現在濃い事がよく解る
觀測を望む星——土 星。

◎ 紹介新望遠鏡 渡邊 恆夫氏 155mm 反射望遠鏡 鏡は木邊作である。
 銳眼の同氏の今後の活躍を期待する。

課より 今季の觀測の爲め報告用紙 80枚伊達氏より再度の寄贈を受けた事を課員に代り謝します。

黄道光, 對日照, 光帯に関する記事の掲載されてゐる

文獻(天界158號303頁)の續き

- 「天界」第162號 黄道光の研究について(下保 茂)
 第163號 黄道光に関する研究斷片(淺野英之助)
 第167號 黄道光の本質に就て i. (ホフマイスタ)
 第168號 ” ” ii. (”)
 第169號 濠洲との黄道光同時觀測計畫に就て(淺野英之助)

觀測月報欄報告は

「天界」第157, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 170, 171號

其他の記事は

「天界」第158, 159, 160, 169, の各號

「花山ブレテン」

第280, 284, 287, 290, 291, 294

課報(淺野廣瀬兩氏發行)

第40號(1935, 五, 5)より第43號まで(1935, 七, 21)

其他

花山急報

第1, 3, 4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24,
 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43,
 45, 46, 47, 48, 49, 52, 53, 54, 94, 106, 124, 131, 144, 146, 163, 165, 167,
 168.

流星課月例報告 (55)

(1934年十二月)

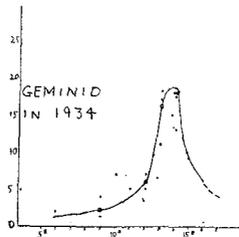
十二月の流星は雙子座流星期を中心として天候概ね良好であつた爲、觀測數は可成り多かつた。下に新觀測者二君を紹介する。

佃 泰 三君、山田 竹 男君 共に京都市

雙子座流星群

雙子座 θ 流星群は本月の觀測者全員によつてよく觀測され、觀測延時間 1794分(=約30時間)、流星數233個(Gminid に屬するもののみ)といふ成績を得ることが出來た。

出現を最初に認めたのは5~6日夜の安武氏の觀測であつて、其の後9日より15日迄は各夜とも觀測を繼續することが出來た。出現の最も盛であつたのは12~13日と13日~14日の兩夜で、何れも一時間の平均數は20個に近い。兩



夜の出現程度が略々同程度であつた事は其の中間に即ち日本時間の13日晝間(13.5d)に眞の極大があつたものと想像される。出現程度は昨年とあまり大差はなかつたと考へてよい。負一等以上の流星も若干見られてゐる。輻射點の移動も、8.65日(U. T.)の $\alpha=106^\circ$, $\delta=+35^\circ$ より14.64日(U. T.)の $\alpha=113^\circ$ $\delta=+325^\circ$ まで可成り見事に檢出することが出來た。

同時期に活動する雙子座 β 流星群は 稻垣氏及筆者によつて認められた。其他には特筆すべき流星群の出現はなかつた。

課長 小 旗 孝 二 郎

變光星課報告 (31)

倉敷 小山 秋雄

8月中の觀測報告數

氏名	今津 績	木邊 成麿	加藤 孝一	沓掛 七二	高井 博典	笹部 榮一	伊達 英太郎	佃 泰三	鈴木 一男	小澤 喜一	井澤 一男	西川 英男	西井 宗一	崔部 進	安武 研二	渡邊 恒夫	勝浦 茂雄	崔部 守子	合計
星數	8	19	5	10	6	11	6	7	8	15	3	12	12	17	9	0	3	3	64
觀測數	24	167	75	41	31	97	21	51	111	169	23	30	97	142	43	0	23	21	1166

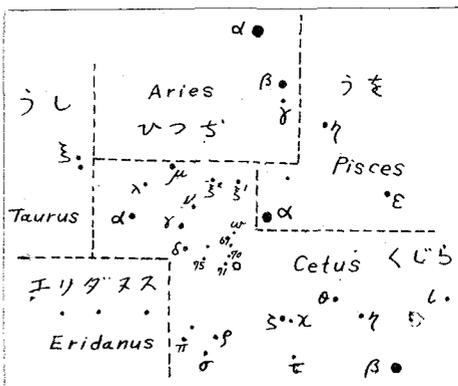
- 當課始まつて以來の多數の報告を得た。まことに慶賀すべき事である。
- 今津氏は轉任の爲、觀測一時減少した。
- 課報は第14號を發行した。又10徑望遠鏡に好適の星圖を十葉許り追加作成した。

ミラ(くじら座オミクロン星)觀測用星圖.

ミラは本年11月末極大光度に達するが、10月中旬には六等星になる筈である。本年は觀望にも好時機で十月には21時頃既に南東の空に充分見られるから星圖をのせておく。(前號本欄参照)

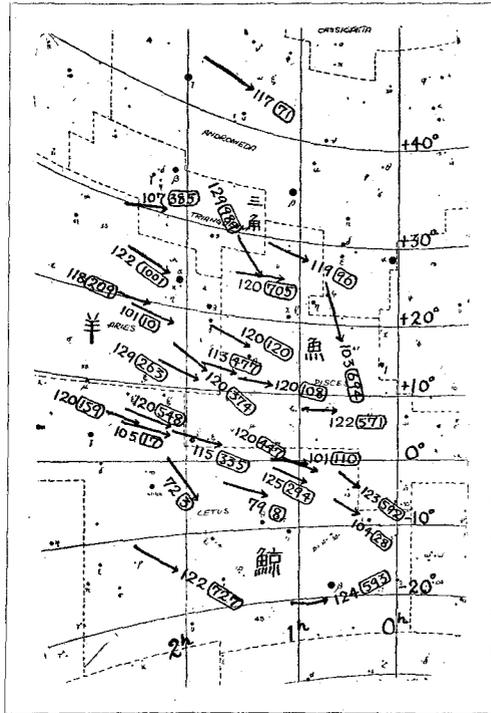
比較星 (HA 37)

星名	光度	分光型
ひつじ座 α	2.19	K ₂
くじら座 β	2.39	K ₀
” α	2.68	Ma
ひつじ座 β	2.95	A ₅
くじら座 γ	3.56	A
うを座 α	3.83	A _{2p}
くじら座 δ	4.13	B ₂
” ε ²	4.27	A
くじら座 ζ ¹	4.37	G ₅
” μ	4.62	A ₅
” λ	4.93	B ₅
” ν	5.10	K
” 75	5.38	K
” 70	5.53	A ₂
” 69	5.67	Ma
(ω)	5.84	—
(γ)	6.08	—
くじら座 71	6.36	A



(ミラ觀測用星圖)

1935年十月中旬の小遊星圖



上圖は本年十月中に衝になる小遊星の中、光度12.9等迄のものゝ位置を示す。矢の長さは本月中の運動の量を示し、又矢の方向は運動の方向を示す。103(694)と云ふのは第694番の小遊星にして衝に於ける光度は10.3等なる事を表はす。本月は第三番の小遊星 Juno の衝になる。十月は空氣がよく澄み、寒くなく暑くなく屋外の觀測に最もよい氣候である。

(花山で見える) 掩蔽豫報 (昭和十年十一月)

星名	光級	潜入時刻	位置角	出現時刻	位置角	月齡
ρ Cap	5.0	日 時 分	51	日 時 分	334	日
ϵ Ari	4.6	3, 22:15.8	25	3, 22:59.8	234	7.2
36 Tau	5.7	11, 0:7.2	21	11, 1:18.7	215	14.3
315 B Tau	6.3	12, 1:43.7	171	12, 3:2.3	292	15.3
5 Gem	6.3	12, 20:11.2	4	12, 21:3.4	263	16.0
44 Gem	5.9	14, 4:15.1	141	14, 5:12.5	15	17.5
54 Cnc	5.9	15, 1:44.7	120	15, 2:42.7	13	18.3
ξ Leo	6.3	17, 3:7.7	18	17, 4:11.9	10	20.4
155 B Leo	5.1	— — —	—	18, 0:22.3	10	21.1
	6.5	19, 3:48.0	147	19, 4:58.8	10	22.4

太陽課 黑點相對數報告 (1935年八月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	權邊(朝鮮忠清北道)	渡野(松山師範學校)	日野(大分縣杵築)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	佐々々(大阪市岡中學)	前田(京都市下京區)	木邊(滋賀縣中里村)	尾崎(宇治山田市)	小澤(名古屋西區)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	森久保(神奈川縣及川)	淺井(橫濱保土谷區)	水谷(京都市本郷區)	稻垣(京都市芝區)	服部(京都市大森區)	山崎(岩手縣水澤町)	下保(札幌市豐平町)	
鏡徑耗	58	80	41	98	150	75	80	110	70	75	30	32	102	100	45	58	38	75	50	58	58	
倍率	40	51	55	69	68	77	70	92	40	60	50	55	75	73	60	60	50	30	44	50	44	
1		12																				13
2		15																				14
3		13																				14
4		忙																				23
5		忙																				忙
6		23																				28
7		25																				忙
8		59																				38
9		旅行中の爲休測																				忙
10		旅行中の爲休測																				45
11		旅行中の爲休測																				35
12		旅行中の爲休測																				54
13		旅行中の爲休測																				49
14		旅行中の爲休測																				27
15		旅行中の爲休測																				47
16		旅行中の爲休測																				37
17		旅行中の爲休測																				35
18		旅行中の爲休測																				41
19		旅行中の爲休測																				忙
20		旅行中の爲休測																				忙
21		旅行中の爲休測																				45
22		旅行中の爲休測																				忙
23		旅行中の爲休測																				28
24		旅行中の爲休測																				忙
25		旅行中の爲休測																				忙
26		旅行中の爲休測																				33
27		旅行中の爲休測																				忙
28		旅行中の爲休測																				忙
29		旅行中の爲休測																				28
30		旅行中の爲休測																				27
31		旅行中の爲休測																				37
日數		15																				21
平均		22																				33

- 上表の他になほ静岡の大石氏の報告がありました。
- 五月號に發表して置いた報告用紙のことは色々の都合で大へんおそくなりましたが近く出來上り既に發達しました。なほ新しく報告を寄せられる方がありましたらえんりよなく用紙御申越し下さい。
- 更に報告用紙中相對數(10g+5)は(10g+l)の略字中bはdの誤植につき訂正します。